

授業科目名	芸術文化と観光	担当教員	平田 オリザ 藤野 一夫 高橋 一夫
必修の区分	必修		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年第 1 クォーター		
講義内容	<p>本学での 4 年間の学びの出発点となる重要な科目である。観光分野と芸術文化分野という、一般的な通念からすると、その関係性の具体像がなかなかイメージしにくい二つの分野について、両分野を架橋することが、交流人口の多い活性化した地域像を創造する源泉になることを学修する。両分野の政策的な動向、諸外国では当然のように行われている両分野を架橋する取組み事例、そして国内で一つの象徴的な取組みとなりつつある国際芸術祭等を取り上げ、両分野の基礎的な理解とともに、それを架橋する意義を理解できるものとする。</p>		
到達目標	<p>①地域における、観光分野と芸術文化分野各々の産業的、公共的な意味について理解している。  ②両分野の架橋が、地域に新たな価値創造の源泉になることを理解している。  ③価値創造の考え方とともに、その具体的な展開事例について理解している。  ④自らが、地域の価値創造に対して、両分野を併せ持った視点から問題意識を持つことが出来ている。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公共政策としての文化観光政策（平田）</li> <li>2 街づくりと観光文化政策（平田）</li> <li>3 観光とエンタテインメント（平田）</li> <li>4 芸術家から見た観光の意味（平田）</li> <li>5 芸術文化政策と観光政策の連携のしくみ（藤野）</li> <li>6 文化芸術と観光の同根性と新しい社会システム（藤野）</li> <li>7 ドイツ語圏における芸術文化政策と観光政策のしくみ（藤野）</li> <li>8 日本における芸術文化政策と観光政策の構築（藤野）</li> <li>9 観光事業と観光産業（高橋）  －地域主体の観光とそれに関わる観光産業－</li> <li>10 旅行商品の構成要素とそれが消費者に届くまで（高橋）  －マーケティングのはじめの一步－</li> <li>11 観光からみた芸術・文化（高橋）  －観光と「文化の真正性」について考える－</li> <li>12 フェスティバルにおける観光の役割（高橋）  －瀬戸内国際芸術祭を事例として－</li> </ol>		
事前・事後学習			

テキスト	授業中に配布
参考文献	『新しい広場を作る』（岩波書店・平田オリザ）
成績評価の基準	授業での発言・貢献（40%）、レポート（60%）
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	